

第3章 環境に関する状況

1. 自然環境

本市は笛吹川をはさんで南部の御坂山系からなる地域と、釜無川により形成された沖積平野部に分けられます。山梨県全体との比較では、森林の割合が小さく、農用地・宅地の割合が大きくなっていますが、身近なところでさまざまな動植物を観察することができます。

(1) 動物

山梨県が平成7年度から13年度にかけて実施した環境資源調査によると、本市には次の動植物が分布していることが確認されています。

哺乳類

アズマモグラ、アブラコウモリ、ハタネズミ、ハツカネズミ、クマネズミ、ホンドイタチ

鳥類（笛吹川中道橋、風土記の丘周辺）

アオサギ、イカルチドリ、イワツバメ、ウグイス、エナガ、オオジュリン、オオヨシキリ、オナガ、オナガガモ、カシラダカ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、キジ、キジバト、キセキレイ、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、シジュウカラ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ダイサギ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツバメ、ドバト、トビ、ノスリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、バン、ヒドリガモ、ヒバリ、ホオジロ、マガモ、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ

魚類

アブラハヤ、ウグイ、オイカワ、カダヤシ、カマツカ、カワヨシノボリ、ギンブナ、シマドジョウ、タモロコ、ドジョウ、ニゴイ、ホンモロコ、モツゴ、ヨシノボリ

両生類・爬虫類

ニホンアマガエル、ウシガエル、ニホンカナヘビ、ニホントカゲ、アズマヒキガエル、ヤマカガシ

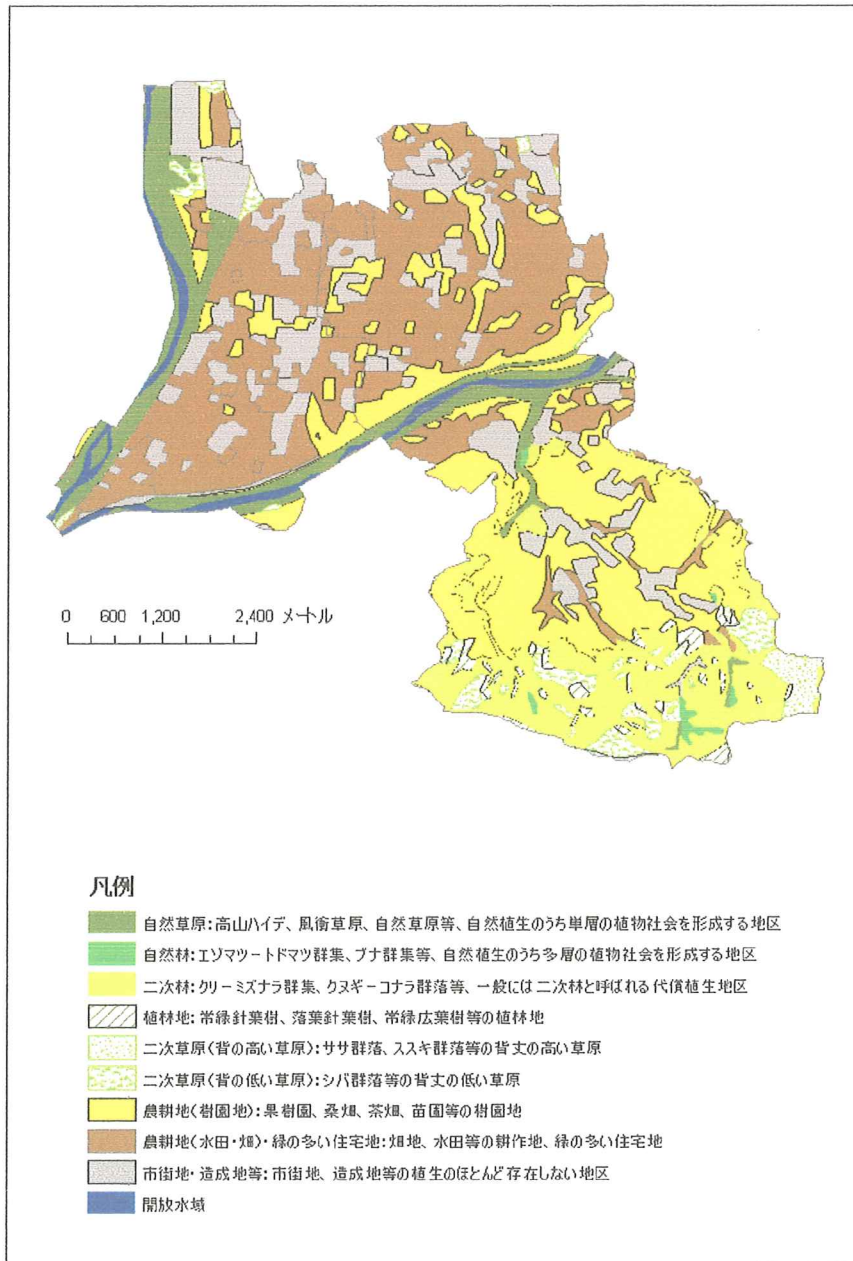
昆虫類（チョウの仲間）

イチモンジセセリ、ウラナミシジミ、キアゲハ、キタテハ、キチョウ、スジグロシロチョウ、ツバメシジミ、ヒメアカタテハ、ヒメウラナミジャノメ、ベニシジミ、ホソオチョウ、モンキチョウ、ヤマトシジミ

(2) 植物

本市の標高は、地図上で推計すると南西部釜無川の 241m から南東部御坂山地の 929m の間で分布しています。旧豊富村内の御坂山地には、スギ、ヒノキ、アカマツなどの針葉樹のほか、クヌギ、コナラなどの広葉樹が分布しています。また、市街地近くでも、春先の農耕地にれんげ草が咲き、美しい景観が広がります。

■図表 3-1 植生自然度



出典：環境省自然環境保全基礎調査

2. 生活・都市環境

(1) 大気汚染の状況

山梨県では、大気汚染の状況を把握するために、一般環境大気測定局 10 局および自動車排出ガス測定局 2 局、合計 12 局で大気汚染状況の常時監視をおこなっています。本市内に測定局はありませんが、近隣の南アルプス測定局の結果を参考までに掲げます。

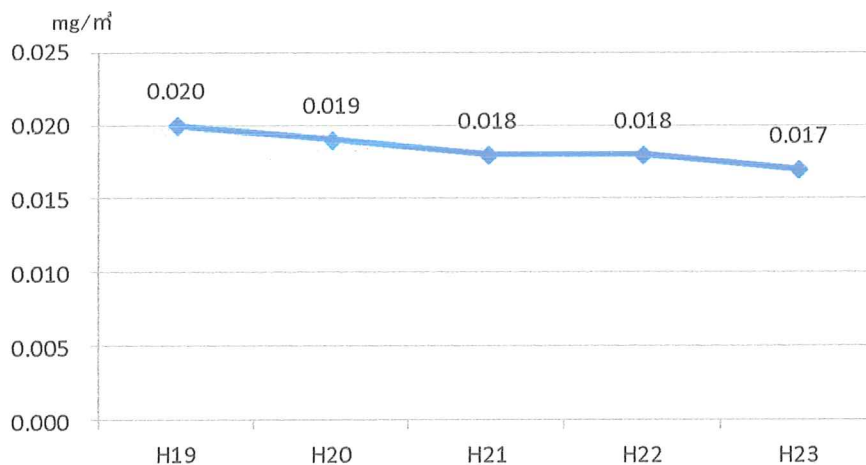
光化学オキシダントを除いて、環境基準は達成されています。また、光化学オキシダントについても、基準値を超えた日数・時間数は改善しており、濃度の年平均値も低下しています。なお、汚染物質ごとの経年変化は、下図に示すとおりです。

■図表 3-2 環境基準の達成状況

項目	環境基準	測定値が基準を超えた日数・時間数		評価	
		H19	H23	H19	H23
SPM [※]	1 時間値の日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ 1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること	0 日 0 時間	0 日 0 時間	○	○
NO ₂ [※]	1 時間値の日平均値が 0.04~0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下であること	0 日	0 日	○	○
Ox [※]	1 時間値が 0.06ppm 以下であること	141 日 901 時間	69 日 401 時間	×	×

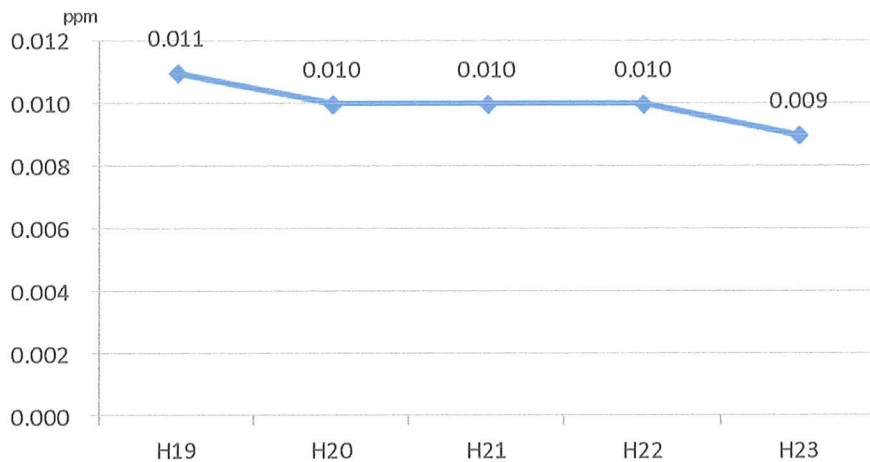
※ SPM：浮遊粒子状物質、NO₂：二酸化窒素、Ox：光化学オキシダント
出典：平成 24 年度版やまなしの環境（山梨県）

■図表 3-3 浮遊粒子状物質（SPM）濃度の年平均値の経年変化



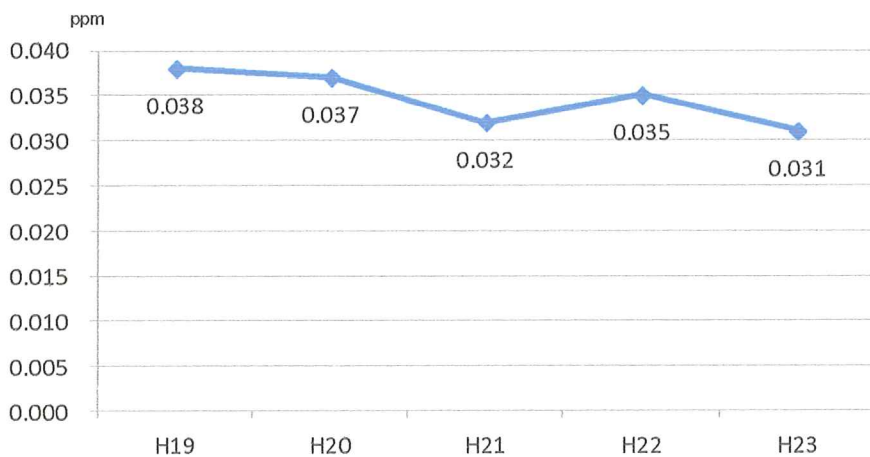
出典：平成 24 年度版やまなしの環境（山梨県）

■図表 3-4 二酸化窒素(NO₂)濃度の年平均値の経年変化



出典：平成 24 年度版やまなしの環境（山梨県）

■図表 3-5 光化学オキシダント(Ox)濃度の経年変化



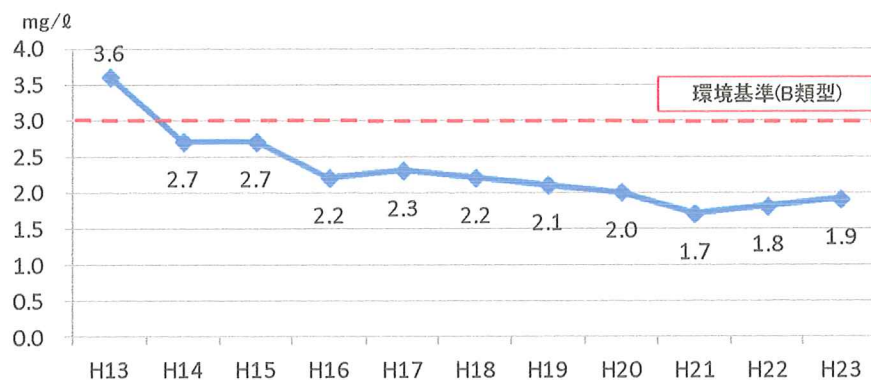
備考：昼間の 1 時間値の年平均値

出典：平成 24 年度版やまなしの環境（山梨県）

(2) 河川の水質汚濁の状況

市内の小河川は、市の南側を笛吹川に沿うように流れる鎌田川に流れ込むため、鎌田川の水質をみることによって市内の河川の水質汚濁状況を概観することができます。山梨県がおこなっている公共用水域水質測定結果から、鎌田川流末のBOD（生物化学的酸素要求量）※の経年変化をみると、平成13年度までは環境基準を上回っていましたが、それ以後は改善傾向にあります。

■図表3-6 鎌田川流末のBODの経年変化

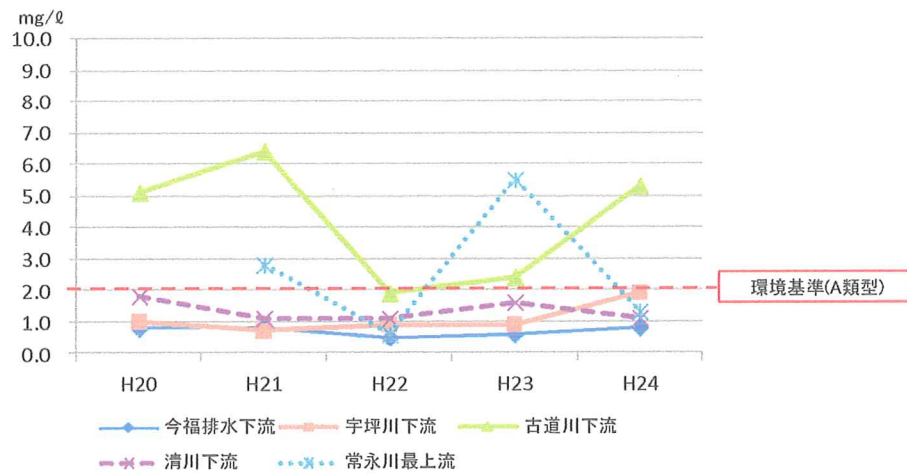
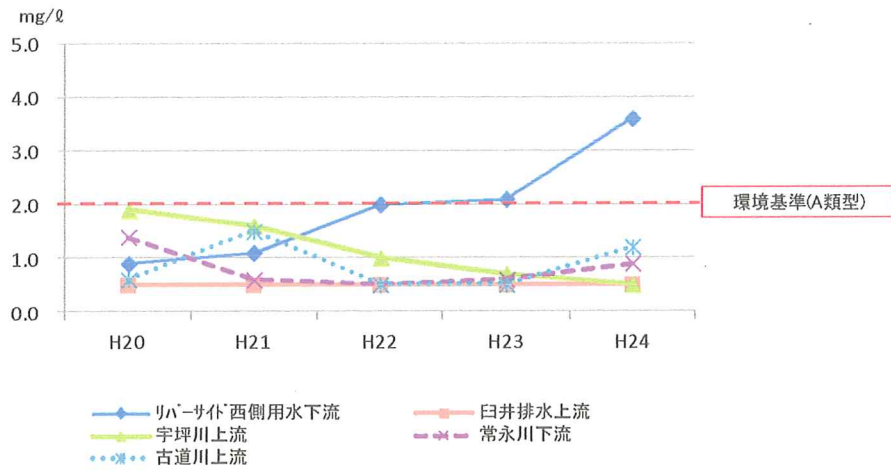
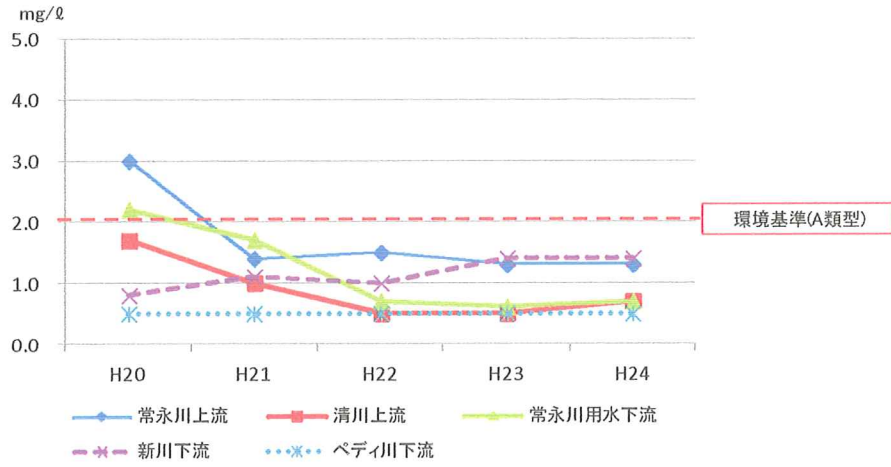


出典：平成24年度版やまなしの環境（山梨県）

次に、本市がおこなった市内河川の水質測定結果を図表3-7～図表3-9に示します。一部にBOD値が比較的高い河川がみられます。水量が少ない河川であり、測定日における一時的な排水の流入等が原因であると推定されますが、今後とも注視していきます。

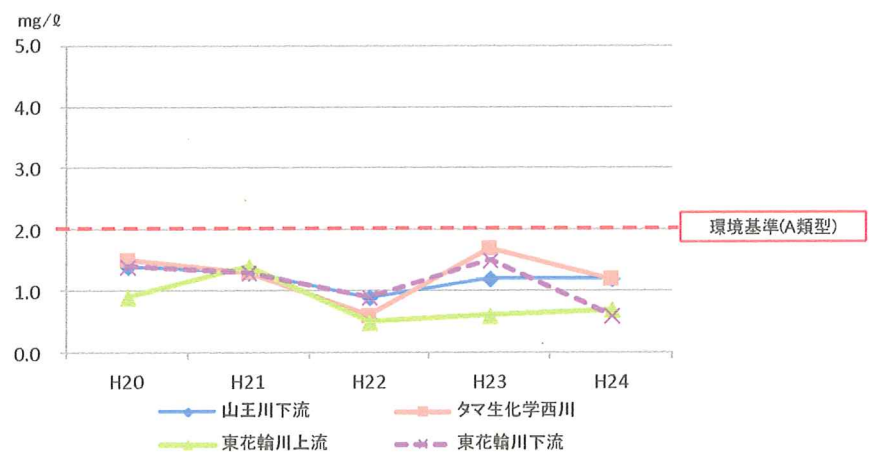
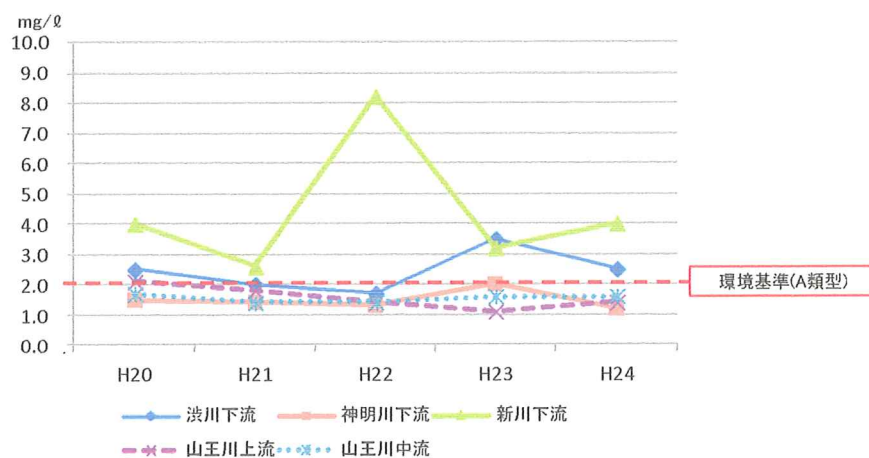
※ BOD：水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと、河川の有機汚濁を測る代表的な指標。

■図表 3-7 市内河川のBODの経年変化（田富地区）

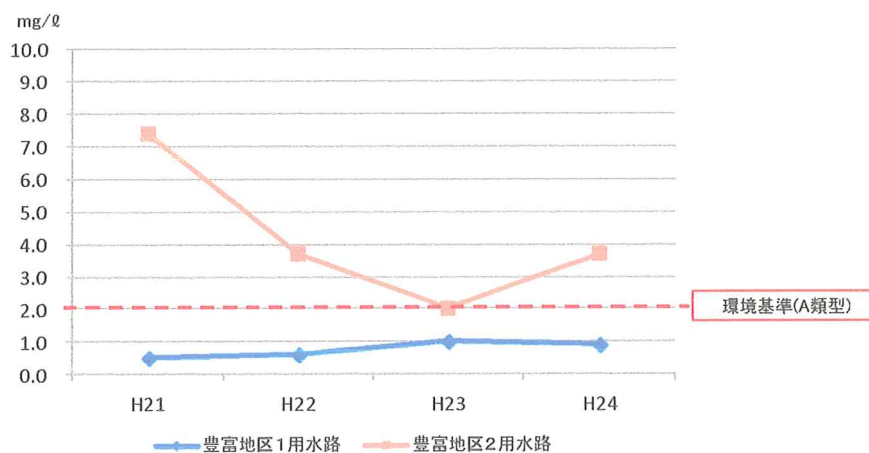


出典：環境課資料

■図表 3-8 市内河川のBODの経年変化（玉穂地区）



■図表 3-9 市内河川のBODの経年変化（豊富地区）



出典：環境課資料

(3) 地下水の状況

山梨県では地下水の水質保全を図るために年度ごとに測定計画を定め、地下水水質の監視をおこなっています。平成 24 年度、市内では 2 箇所において測定がおこなわれ、いずれの地点でも環境基準は達成されていました。

■図表 3-10 市内井戸の地下水水質測定結果

物質名	環境基準値	井戸の所在地		環境基準 達成状況	
	mg/l	臼井阿原	極楽寺		
環境 基準 項目	カドミウム	0.003	0.0003 未満	0.0003 未満	○
	全シアン	検出されないこと※	下限値(0.1)未満	下限値(0.1)未満	○
	鉛	0.01	0.005 未満	0.005 未満	○
	六価クロム	0.05	0.02 未満	0.02 未満	○
	砒素	0.01	0.005 未満	0.005 未満	○
	総水銀	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満	○
	PCB	検出されないこと※	下限値(0.0005)未満	下限値(0.0005)未満	○
	その他 20 項目				○

※ 検出されないこと：所定の測定方法により測定した場合において、その結果が当該方法の検出可能な下限値に満たないことをいいます。

出典：平成 24 年度山梨県公共用水域・地下水水質測定結果

(4) 自動車騒音

平成 24 年度自動車騒音常時監視では、市内の一般道 3 路線 6 区域で騒音発生状況が測定されました。一般県道臼井阿原竜王線の山之神などで環境基準（昼間 70 デシベル以下、夜間 65 デシベル以下）を上回る騒音が発生しています。

■図表 3-11 自動車騒音常時監視結果

対象道路路線名	評価区域 始点 終点	住居等 戸数 (戸)	達成戸数・割合							
			昼夜間とも 基準値以下		昼間のみ 基準値超過		夜間のみ 基準値超過		昼夜間とも 基準値超過	
	(戸)	(%)	(戸)	(%)	(戸)	(%)	(戸)	(%)		
主要地方道 甲府市川三郷線	布施 布施	232	231	99.6	0	0.0	0	0.0	1	0.4
主要地方道 甲府市川三郷線	布施 布施	27	27	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
主要地方道 甲府市川三郷線	山之神 山之神	8	4	50.0	4	50.0	0	0.0	0	0.0
主要地方道 韭崎南アルプス中央線	臼井阿原 乙黒	262	262	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
主要地方道 韭崎南アルプス中央線	乙黒 浅利	1	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
一般県道 臼井阿原竜王線	山之神 山之神	80	50	62.5	0	0.0	10	12.5	20	25.0

出典：平成 24 年度自動車騒音常時監視結果（環境課）

(5) 公害苦情

本市および山梨県の機関が受理した公害苦情の件数は次のとおりです。水質汚濁や大気汚染、悪臭に関するものが目立ちます。

■図表 3-12 公害苦情件数（市及び県の機関の受理分）

種別	H20	H21	H22	H23	計
大気汚染	1	3	2	2	8
水質汚濁	1	6	3	2	12
土壌汚染	0	0	0	0	0
騒音	2	0	2	0	4
振動	0	0	0	0	0
地盤沈下	0	0	0	0	0
悪臭	2	3	0	1	6
その他	2	2	3	2	9
計	8	14	10	7	39

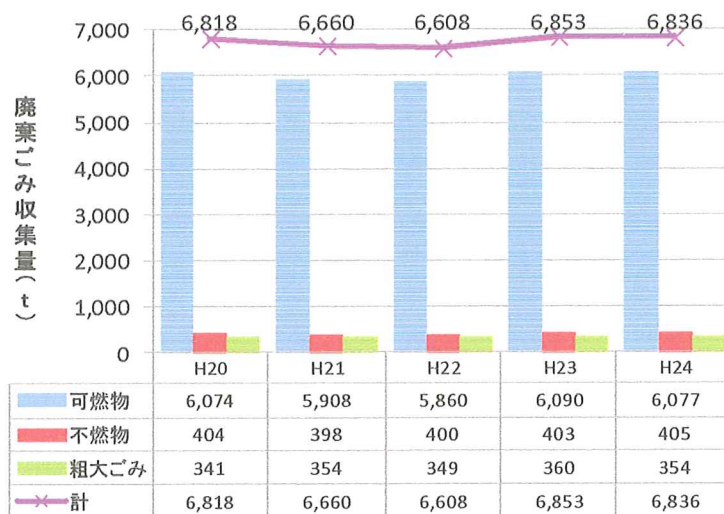
出典：各年度版やまなしの環境（山梨県）

(6) 廃棄物

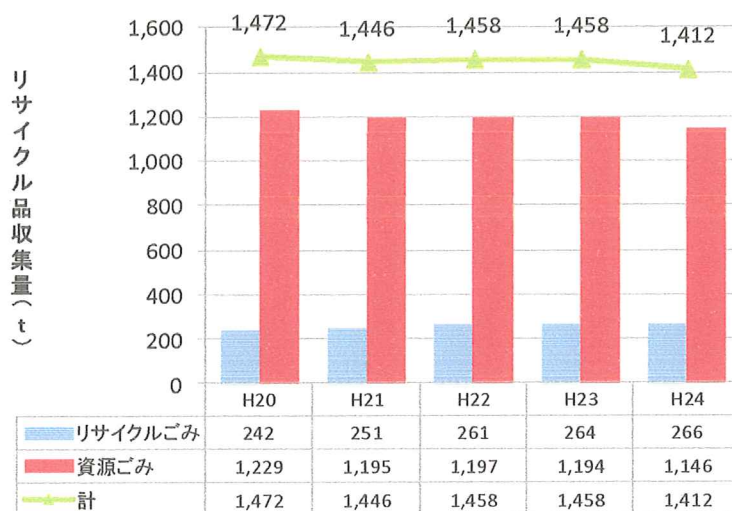
① ごみ処理の状況

市内における廃棄ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ）とリサイクル品（ペットボトルやアルミ缶、ダンボールや新聞紙など）の収集量の推移を示します。廃棄ごみは23年度に増加に転じて以後横ばいですが、リサイクル品は資源ごみを中心に減少傾向にあります。

■図表 3-13 廃棄ごみ収集量の推移



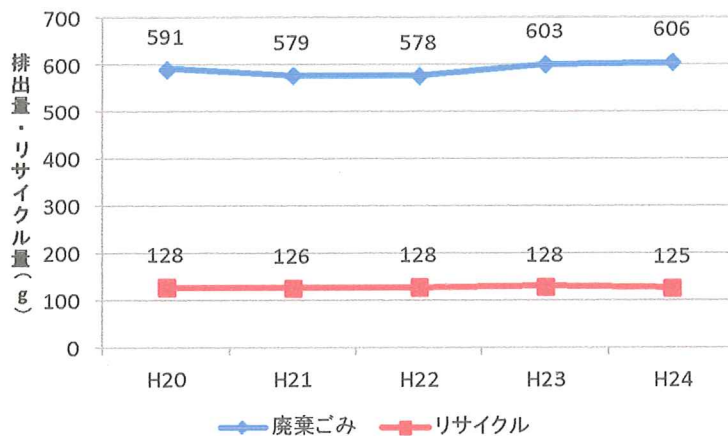
■図表 3-14 リサイクルごみ収集量の推移



出典：環境課資料

なお、参考までに、図表 3-13 及び図表 3-14 に示す数値を各年の本市人口数と年間日数で除して、一人一日当たりの廃棄ごみ排出量とリサイクル量を推計し、その推移をみると、図表 3-15 のとおりです。 廃棄ごみの排出量が増加傾向にある反面、リサイクル量は伸び悩んでいることがうかがえます。

■図表 3-15 一人一日当たりの廃棄ごみ排出量・リサイクル量の推移



備考：推計に用いた人口数は国勢調査結果および各年 10 月現在の推計人口による。
出典：環境課資料

リサイクル品の収集は、各自治会と各庁舎に設置されているリサイクルステーションでおこなわれています。リサイクル品収集量の推移を詳細にみると、次のとおりです。

■図表 3-16 品目別リサイクル状況

(各年数値の単位：t)

区 分		H20(a)	H21	H22	H23	H24(b)	b/a
リサイクル	スチール缶	28.72	26.98	24.21	25.89	24.63	0.86
	アルミ缶	21.50	23.61	24.21	25.11	26.14	1.22
	無色ビン	39.37	41.55	44.59	43.91	46.16	1.17
	茶色ビン	37.84	37.20	40.91	40.04	42.36	1.12
	その他ビン	13.17	14.81	15.46	16.96	16.73	1.27
	ペットボトル	44.23	46.79	49.83	50.05	50.82	1.15
	その他プラ	57.64	60.16	61.94	62.26	59.28	1.03
	計	242.47	251.10	261.15	264.22	266.12	1.10
資源ごみ	ダンボール	188.61	207.58	220.65	238.37	242.89	1.29
	紙パック	7.40	7.49	8.26	7.23	7.00	0.95
	新聞紙	380.35	356.28	353.66	332.09	315.92	0.83
	雑誌・チラシ	532.09	502.91	497.37	504.53	470.90	0.89
	ミックス紙	59.49	64.34	66.75	67.82	68.56	1.15
	生ごみ(豊富地区)	61.54	55.92	50.21	43.69	40.50	0.66
	計	1,229.48	1,194.52	1,196.90	1,193.73	1,145.77	0.93

出典：環境課資料

② 生活排水処理の状況

生活排水処理は、下水道、農業集落排水設備、合併処理浄化槽などによりおこなわれています。本市の生活排水クリーン処理率（生活排水が処理施設により処理される人口の割合）は平成 24 年 3 月末現在で 99.1%となっており、県全体の平均（77.2%）を約 22 ポイント上回っています。

本市で発生するし尿のうち下水道に入るものは、富士川町にある釜無川浄化センターにおいて、韮崎市、南アルプス市、甲斐市、富士川町、昭和町、市川三郷町の汚水とともに一括処理されます。市内の下水処理人口（処理区域内水洗化人口）は、平成 24 年 3 月末現在、20,124 人となっています。

■図表 3-17 生活排水クリーン処理率

（単位：人、平成 24 年 3 月 31 日現在）

	総人口	下水道	農業集落排水処理施設	合併処理浄化槽	コミュニティプラント	小規模集合排水処理施設	衛生処理人口	生活排水クリーン処理率
中央市	29,980 (29,994)	20,124 (16,815)	3,466 (3,510)	2,786 (2,656)	3,344 (3,239)	—	29,720 (26,220)	99.1% (87.4%)
県	855,746 (871,481)	529,128 (501,174)	16,460 (16,664)	108,856 (112,566)	6,512 (7,241)	52 (59)	661,008 (637,704)	77.2% (73.2%)

備考：（ ）内は平成 20 年 3 月 31 日現在の状況

出典：「生活排水クリーン処理率の実績」（山梨県）

浄化槽から発生する汚泥は、田富・玉穂地区のものが中巨摩地区広域事務組合衛生センターにおいて処理されます。豊富地区から発生するものは、ほとんどが豊富クリーンセンターにおいて堆肥化されますが、一部は富士河口湖町の大和田清掃センターにおいて処理されます。また、田富地区のリバーサイドタウンと流通団地においては、地区内のコミュニティプラント、よし原処理センターで処理されます。

し尿（浄化槽汚泥、くみ取りし尿）の処理状況は、次表のとおりです。

■図表 3-18 汚泥処理状況（浄化槽汚泥＋くみ取りし尿）

単位：t

区分	H20	H21	H22	H23	H24
堆肥化	2,052	2,067	2,305	2,313	1,981
処理施設	6,061	5,919	5,672	5,622	5,588
計（し尿排出量）	8,113	7,986	7,977	7,935	7,569

出典：環境課資料

③ 不法投棄の状況

市内における不法投棄の現状として、山梨県中北林務環境事務所では把握・確認している状況は、図表 3-19 のとおりです。平成 20 年度当初の不法投棄残量は 3,679kg ですが、平成 24 年度末残量は 566kg と改善しています。

また、本市が独自に発見・撤去した不法投棄量の推移は、図表 3-20 のとおりです。

全般的に、山間部の林道沿いに多量に投棄されるケースや河川へのポイ捨てが多く見受けられます。

■図表 3-19 不法投棄の状況①

(投棄量:kg)

	H20		H21		H22		H23		H24	
	箇所数	投棄量	箇所数	投棄量	箇所数	投棄量	箇所数	投棄量	箇所数	投棄量
不法投棄残量	16	3,679	31	1,162	35	1,484	35	1,484	0	0
新規確認	39	1,291	21	40,862	17	936	8	204	6	877
撤去	24	3,808	17	40,540	17	936	43	1,688	5	311
年度末残量	31	1,162	35	1,484	35	1,484	0	0	1	566

出典：山梨県中北林務環境事務所調べ

■図表 3-20 不法投棄の状況②

(単位:t)

年度	H20	H21	H22	H23	H24
不法投棄物撤去量	3.72	4.00	19.40	5.00	6.00

(7) 公園・緑地

本市には大小さまざまな公園・緑地があり、市民のいこいの場となっています。

主要な公園としては、田富ふるさと公園、玉穂ふるさとふれあい広場、シルクの里公園などがあり、週末には家族連れの利用客などでにぎわいをみせています。また、イベントの開催に利用されることもあります。

また、豊富な緑地にも恵まれており、笛吹川の河川敷やのどかな田園風景といった、水と緑の織りなす景観は、市民にやすらぎを与えています。

■図表 3-2 1 市内の都市公園等と面積

公園名	面積(ha)
中巨摩地区公園	2.20
中巨摩地区第2公園	2.60
玉穂ふるさとふれあい広場	4.10
若宮公園(1, 2, 3号)	1.15
阿原2号公園	0.07
成島公園(1, 2号)	0.42
下河東公園(1, 2号)	0.49
山王川河川緑地	0.70
田富ふるさと公園	1.90
常永川河川緑地	0.95
鍛冶新居公園(1, 2号)	0.51
田富福祉公園	1.40
ひばり児童館公園	0.32
リバーサイド1号公園(田富北保育園西側)	0.17
リバーサイド2号公園(アピタ南)	0.07
リバーサイド水源公園	0.08
防災公園	0.16
豊富シルクの里公園	2.51
豊富農村公園	2.93
神明の丘眺望公園	0.29
浅利川農村公園	0.14
木原八王子公園(関原若宮公園)	2.33
計	25.49

出典：環境課資料

3. エネルギー消費状況と二酸化炭素（CO₂）排出量

中央市地域新エネルギービジョンに掲げる推計値（平成17年基準）によると、本市のエネルギー消費構造およびCO₂排出量は次のとおりです。

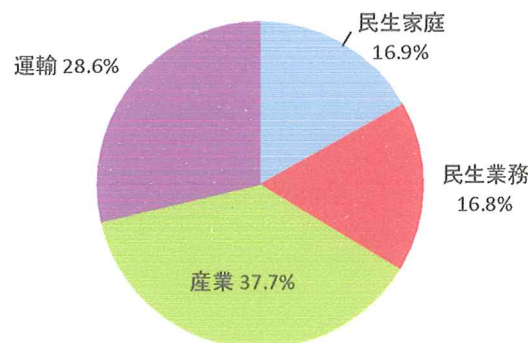
（1）エネルギー消費構造

消費部門別のエネルギー消費量（推計値）の構成比は図表3-22のとおりです。産業部門が37.7%と最も多く、次いで運輸部門の28.6%となっています。

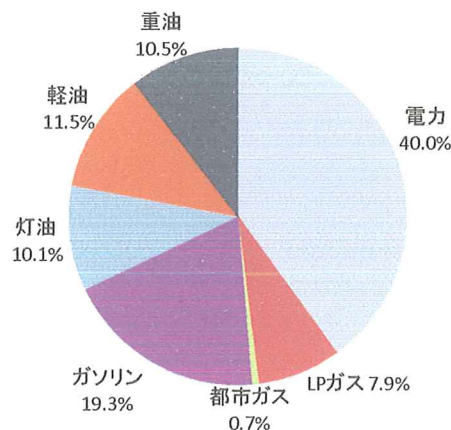
また、エネルギー源別の消費量の構成比は図表3-23のとおりです。電力が4割を占め最大となっており、次いでガソリン19.3%などとなっています。なお、最大の割合を占める電力について、その消費部門別の構成比をみると、図表3-24のとおりです。

以上のように、本市では産業部門中心・電力中心のエネルギー消費構造になっていることがわかります。

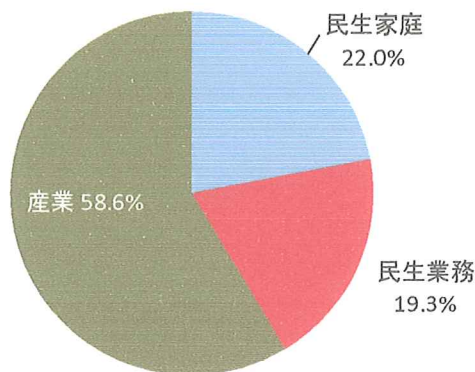
■図表3-22 消費部門別エネルギー消費量構成比



■図表3-23 エネルギー源別消費量構成比



■図表 3-24 消費部門別電力消費量構成比



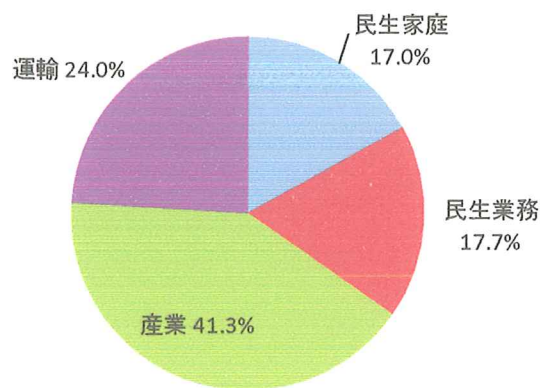
出典：中央市地域新エネルギービジョン

(2) CO₂排出量

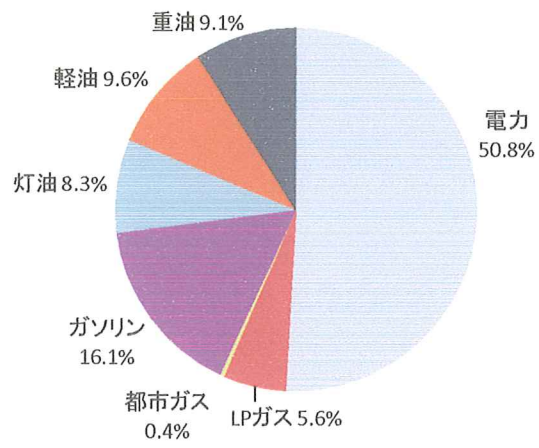
本市のCO₂の排出量（推計値）の構成比は、図表 3-25 のとおりです。産業部門が4割強と最も多くなっています。

また、エネルギー源別の構成比は図表 3-26 のとおりです。電力が約半分を占め、次いでガソリン 16.1%などとなっています。CO₂は、化石燃料（石油・石炭など）を燃やすことで発生しますが、電力については、発電時の燃料消費の際に多量のCO₂排出をもたらすため、その比率が高くなっています。電力を消費することは、間接的にCO₂排出量の増加を助長していることとなります。

■図表 3-25 消費部門別CO₂排出量構成比



■図表 3-26 エネルギー源別 CO₂ 排出量構成比



出典：中央市地域新エネルギービジョン

4. 環境活動の状況

(1) 事業者の取り組み

近年、ISO14001 環境マネジメントシステムなどの認証を取得し、事業活動において自主的に環境保全対策をおこなう事業者が増えてきました。平成 25 年 3 月現在、全国で 37,099、山梨県では 158 の組織が ISO14001 の認証を取得しており、市内では 9 件の登録があります。また、環境省策定のガイドライン「エコアクション 21」に沿って環境経営をおこない、認証を取得しているケースもあります。

(2) 市民の取り組み

地球温暖化対策の必要性に関する認知度向上や、東日本大震災を契機としたエネルギー問題への関心の高まりを背景に、日常生活において、省エネ・省資源などの環境保全活動や環境に配慮した生活スタイルの確立に取り組む市民、または今後取り組みたいと考える市民は、増加していると考えられます。

例として、住宅用太陽光発電システム設置補助件数の推移をみると、平成 22 年度 72 件、23 年度 141 件、24 年度 187 件と年々増加しています。

なお、本市では、市民が取り組みやすい身近な環境保全活動として、住民による一斉清掃活動がおこなわれています。この活動には、自治会、子供クラブ、老人クラブなどから多数の参加を得ており、その人数の推移は次表のとおりです。

■図表 3-27 環境美化活動参加人数の推移

年度	田富地区			玉穂地区			豊富地区			計		
	子供	大人	計	子供	大人	計	子供	大人	計	子供	大人	計
20	508	2,557	3,065	515	522	1,037	127	466	593	1,150	3,545	4,695
21	659	3,250	3,909	489	524	1,013	101	510	611	1,249	4,284	5,533
22	683	3,165	3,848	551	438	989	134	513	647	1,368	4,116	5,484
23	502	2,620	3,122	480	485	965	142	626	768	1,124	3,731	4,855
24	558	2,607	3,165	462	506	968	128	635	763	1,148	3,748	4,896

出典：環境課資料

5. 環境関連指標の推移

第1次中央市長期総合計画に掲げる環境関連の指標の推移をまとめると、図表3-28のとおりです。長期総合計画の目標年次（平成29年度）に向け、数値目標の達成を目指してさらなる取り組みを進めていく必要があります。

■図表3-28 環境関連指標の推移

長期総合計画 掲載指標名	長期総合計画策定時		現況値		H29 目標値
	値	年度	値	年度	
公共下水道の普及率	63.8%	H19	67.8%	H24	85.0%
公共下水道の水洗化率	85.7%	H19	84.3%	H24	90.0%
市民1人当たりの公園面積	2.16㎡	H19	2.68㎡	H24	2.73㎡
不法投棄ごみの撤去量	3t	H18	6t	H24	1t
公害苦情件数	54件	H18	26件	H24	40件
自然環境・景観の保全に対する市民満足度	53.2%	H18	67.2%	H23	70.0%
ごみの排出量(1人1日あたり)	758g	H18	731g	H24	530g
ごみのリサイクル率	13.6%	H18	17.1%	H24	29.0%
生ごみのたい肥化率	0.9%	H18	0.7%	H24	1.4%
認定農業者数	157人	H19	134人	H24	165人
直売所の販売額	6.2億円	H18	4.1億円	H24	7.5億円
耕作放棄地面積	76ha	H17	79ha	H22	74ha
農林業の振興に対する市民満足度	53.0%	H18	59.2%	H23	70.0%
道の駅「とよとみ」の入り込み数	367,000人	H18	350,808人	H24	400,000人
「た・から」農産物直売所の入り込み数	143,000人	H18	150,150人	H24	200,000人